

セゾン自動車火災保険株式会社



つながるボタン

もしもの時にボタンを押せばつながるサービスなど、自動車保険の新しい安心を提供



(左より)人事総務部 人事グループ 課長 神出 洋行 様
人事総務部 人事グループ 上堂 茜音 様

会社概要

- 本社所在地:〒170-6068 東京都豊島区東池袋3丁目1番1号 サンシャイン60 40階
- 従業員数:417名
- 事業内容:自動車保険、火災保険等の損害保険事業
- URL:http://www.ins-saison.co.jp/

システム環境の中で、どのような課題が生じるのかを把握でき、良い効果検証となりました。



テレワーク利用者との会議風景

モデル実証を終えて

社員と会社の双方に利点 コールセンターへの拡大が課題

テレワークを始めてみると、会議の日時設定や承認の業務等で工夫が必要でしたが、自宅での作業は中断される要因が少なく、集中できるといった利点がありました。営業開発部の小林は、お客様への提案書の作成を中心に在宅勤務を実施。もともと外回りが多いこともあり、

モバイル勤務を活用していたため部内の混乱もなくスムーズに実施できました。経営企画部の小峰は、議事録作成、集計業務や企画書等の資料作成を自宅でも集中して行いましたが、通勤による疲労が少ないため業務スタートのスムーズさを感じたようです。小峰の場合は、怪我により、通勤が困難になった時期がありましたが、従来の欠勤ではなく、テレワークの活用により会社を休むことなく自宅で業務ができました。業務遅滞を起こさなかったことを考えると、会社にとってもテレワークの効果もたらされた例でした。今回は、テレワークが可能な職種や業務を切り分けて実施しました。今後、適用する範囲をどんどん拡大していく意向はありますが、どこまで対象を広げることができるかが課題です。コールセンター部門の社員や、電話対応に従事している契約社員への適用には高い壁がありますが、本格導入に向けて検証と課題の洗い出しを続けていきたいと考えています。

ライフスタイルの変化にあった多様な働き方の実現

セキュリティ、職種による難しい壁も チャレンジしながら効果検証と課題抽出

社員のやりがい・働きがいを創出する 制度の整備から開始

当社は、SOMPOホールディングスグループの損害保険会社です。主力商品の「おとなの自動車保険」を中心に、自動車保険・火災保険をインターネットやコールセンターを通じて通信販売しています。コールセンターでは、見積りや申し込み、商品に関する相談等お客様からの問い合わせ対応を行っています。

多様な働き方を実現し、生産性を向上させること、また、生活変化に伴う業務遅滞や離職を防止し、社員一人ひとりのやりがい・働きがいを創出することを目指しつつ、「働き方改革」に注力しています。その一環として、産前産後休暇・育児休業や介護休業制度の整備、勤務時間を早める朝型勤務を導入し、テレワークについても可能な範囲で活用できないか模索していました。企画系の部門は、事業所に常駐している必要が比較的小さいこともあり、2017年2月から在宅勤務を試験的に実施することにしました。

“うちの会社ではできない”と決めつけずに テレワーク可能な部門から導入

企画系の部門での試験導入の結果、在宅勤務が生産性向上の効果をもたらすことがわかり、2017年10月に全社的な制度として整備しました。さらに、運用面やツー

ル面での利便性を高めるため、在宅勤務を経験した企画系部門に加えて、営業部門、システム部門、監査部門等に対象を広げ、そこで従事している合計9名がモデル実証事業に参加しました。

テレワーク実施にあたり、利用回数や、書類の持ち帰り等に関する規則を定め、自宅や移動先等、インターネット通信が確保できる場所であれば、テレワークで業務を進められるようにしました。問題点を目を向けるのではなく、導入可能なことからチャレンジすることで検証していくことが大事だと考えています。

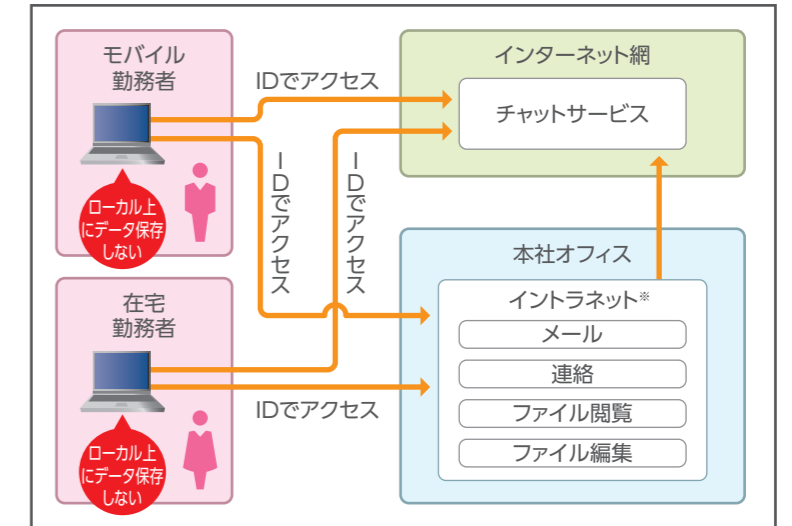
厳しいグループセキュリティによる イン트라ネット*との親和性で苦労も

当社は、情報保全を重視していることから独自のイントラネット*を構築しています。それにより、メールやファイルの収納、情報共有等は、社内からのアクセスに限定され、外部からのアクセスが難しい環境です。また、情報漏洩のリスクを小さくする目的で、社内・社外からのアクセスに関わらず、データが端末上に残らないようにしており、社外から接続をする際にはさらに二段階認証の登録が必須となっています。クラウド上のサービスも自宅からチャットやWeb会議を活用する構想で導入しましたが、イントラネット*との親和性の問題で十分に機能しませんでした。そのため、スマートフォンのビデオ通話を活用する方法でトライアルを進めました。現状の

解決ポイント



テレワークの実証を語る体験者
(左より)営業開発部 課長 津久井 悟史 様
営業開発部 主任 小林 孝一 様 経営企画部 副長 小峰 麻里 様
経営企画部 課長 忠本 良平 様



経営課題

- 多様な働き方の実現による生産性の向上
- 生活変化に伴い、業務遅滞や雇用不安が生じないように多様な働き方を実現

導入概要

- 二段階認証による外部からのイントラネット*へのアクセス制限と情報漏洩の防止
- チャットサービスを導入・検証
- スマートフォンによるビデオ通話の活用
- テレワークが可能な部署からの効果検証を実施

導入効果

- 集中して資料作成を行えることによる生産性の向上
- 病気・怪我等による業務遅滞を防止、スムーズな作業進行
- 社内への業務上の影響が少ないことを実証

モデル実証企業からのアドバイス



- ◆急なアクシデントも鑑み、業務の可視化が重要
業務の工程や進め方等が可視化されていないと、テレワークでの業務進捗を把握することができません。当社は偶然、トライアル中の社員が怪我をして、出社できない場面が訪れました。テレワーク実証中だったこともあり、業務を切り分け、可視化していたため、大事に至らずに業務を進めることができました。
- ◆基幹システムとの親和性を検証
当社と同様にグループ会社によるセキュリティポリシーが厳しい会社や、基幹システムとの親和性が難しい会社は多くあると思います。そこで諦めず、できることから検証し、課題の洗い出しを行うことで、前向きにテレワーク導入を検討することが大事です。

*イントラネット：インターネットの技術を企業などのLANIに応用したもので、イントラ(intra)とは内部のという意味。TCP/IPの規格を使い、ネットワークを構築し、インターネットで使われているものと同じソフトウェアを利用する。